

ヘリコバクター・ピロリ陽性慢性萎縮性 胃炎に対する除菌療法の現状

いずみ
泉あき
明 夫

キーワード：ヘリコバクター・ピロリ除菌療法，慢性萎縮性胃炎

要 旨

慢性萎縮性胃炎の診療において、その病態の説明としてHP感染に言及することは必須である。アンケート調査から外来患者さんがピロリ菌への関心が高いこと、慢性萎縮性胃炎に対する除菌治療の受容性が高いことがうかがえた。今回、自由診療にて188人の慢性萎縮性胃炎の患者さんにHP除菌治療を施行した。153人は医師からの勧め（主な理由は胃粘膜萎縮の進展防止が61%、鳥肌胃炎が24%、高齢者の腺腫、過形成性ポリープが14.4%）、35人は患者さんの希望であった。

慢性萎縮性胃炎に対する除菌治療は実地臨床上保険適応外であること、混合診療の禁止などから煩雑な対応を余儀なくされた。今後は胃粘膜の萎縮の改善、胃癌発生の予防効果についてのエビデンスが確立されることを望むとともに、胃癌予防の見地から胃癌の高危険群に対し積極的に除菌治療を行いたいと考える。

はじめに

近年、*Helicobacter pylori* (HP) 感染が胃粘膜の萎縮、腸上皮化生をきたすことが明らかになってきた。多くの胃癌は萎縮性胃粘膜を母地として発症し、HP除菌により発癌が抑制されることが期待されている。一方、人間ドックや職場健診などでHP感染の有無を検査する機会が増え、HP感染に関する相談、除菌治療を希望する患者

さんが増加しつつある。外来でも慢性萎縮性胃炎の病態の説明としてHP感染について言及せざるを得なくなり、除菌治療を希望される患者さんが多くなってきた。

現時点ではHP感染については、その診断・治療は保険診療上かなりの制約があり、健康保険による慢性萎縮性胃炎におけるHP除菌治療はできないのが現状である。今回、過去3年間に慢性萎縮性胃炎に対し自由診療にて除菌治療を施行したのでその現状とアンケートにより外来患者さんのHP感染についての意識調査を施行したので若干の文献的考察を加え報告する。

Akio IZUMI

泉胃腸科医院

連絡先：〒690-0876 松江市黒田町94-9